

## 米国、カナダ、オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

### 米国：2014年12月10日公表 USDA NASS Crop Production

#### 11月気象概要

2013/14作物年度の冬と同様に、米国中部及び東部では寒冷な天候が支配的であった。実際に、大平原地域北部及び中西部北部から南東部にかけての地域では月別平均気温が平年並みを2.8℃から5.5℃下回った。寒気がロッキー山地北部から北西部にも広がったが、カリフォルニア州及び南西部の砂漠地帯までは届かなかった。カリフォルニア州各地では月別平均気温が平年並みを2.8℃以上上回った。

カリフォルニア州北部では間欠的に降雨があったが、3年間にわたる早魃を埋め合わせるには至らなかった。その一方で、カリフォルニア州南部及び南西部の砂漠地帯では降水量はあったとしてもごくわずかであった。これと対照的に、ロッキー山地及び高原地域 (High Plains) の北部ではかなりの降水量があった。後者の地域では雪のおかげで冬作コムギが生育期間初めの急激な寒波による被害を免れることができた。しかし、さらに南方では高原地域 (High Plains) 中部で一部のコムギが、寒波が最

も厳しかった時期に-17℃から-28℃の低温の影響を受けた。

#### 10月気象概要

太平洋沿岸地域から大平原地域にかけての10月の天候は平年並みに比べて温暖であったが、コーンベルト地帯の大部分では、気温が平年並みまたは平年並みを下回った。大平原地域及び北西部の地域では、温暖な気温により冬作コムギの生育が安定したが、大平原地域南部では、乾燥により出芽に影響が生じた。

一般的にみて、カリフォルニア州南部から中西部の北方にかけての地域、さらに米国中央部の南方及び大西洋沿岸の平野の南部まで、平年並みに比べて乾燥した気象条件となった。これと対照的に、太平洋沿岸北西部を始めとしてオハイオ州の溪谷地域、南東部の内陸地域、コーンベルト地帯 (中西部の北方を除く) といった地域では、平年並みに比べて降水量が多かった。

中西部の北方の地域では、乾燥した天候に恵まれてダイズの収穫が完了間近である。しかし、コーンベルト地帯の南部及び東部ではダイズの収穫及び冬作コムギの作付けの大幅な遅れが生じている。さらに、

中西部では地域によって多雨及び作物の生育の遅れといった様々な要因のためにトウモロコシの収穫に支障が生じた。

#### 作物別概況（2014年12月10日公表）

##### 乾燥インゲンマメ

2014年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量は、前年度から17%増加して130万tとなる見込みである。作付面積は、2013年度に比べて26%増加して70万haとなる見込みである。収穫面積は、2013年度に比べて26%増加して67万haとなる見込みである。米国全体の平均単収（単位面積当たり収穫量）は、1,932kg/haの見込みであり、2013年度に比べて64.4kgの低下となる。ノースダコタ州では、収穫は10月26日までに95%終了しており、前年度及び最近5年間の平均と比べて早まっている。生育期間の大部分を通じて平年並みに近い降水量が得られたが、州の南東部では10月に早魃があったとの報告がある。作柄は大部分が平年並みから良とされている。ミンガン州では冬の気象条件が続き、夏も冷涼で湿潤な天候だったことから、乾燥インゲンマメの生産量が減少した。乾燥インゲンマメの収穫は11月末にはおおむね完了している。ネブラスカ州の収穫は10月26日までに97%が終了しており、作柄は大部分が良から極めて良であった。アイダホ州及びワシントン州では、ヒョウの被害で2014年度の単収が低下している。

##### レンズマメ

2014年度のレンズマメ生産量は、前年度に比べて35%減少して14万8,000tとなる見込みである。収穫面積は、2013年度に比べて24%減少して10万7,200haとなる見込みである。平均単収は、1,376kg/haの見込みであり、2013年度に比べて98.4kgの低下となる。ノースダコタ州では、作付けは4月第3週に始まり6月第3週に終了して、前年度に比べて約3週間早まった。収穫は10月第3週に終了した。作柄は生育期間中を通じて大部分が並みから良とされている。モンタナ州では、作付けは基本的に6月初めまでに終了した。収穫は7月下旬に始まり、9月末に終了した。

##### 乾燥エンドウ

2014年度の乾燥エンドウ生産量は、前年度に比べて7%増加して14万8,000tとなる見込みである。作付面積は、前年度に比べて9%増加して37万8,000ha、収穫面積は、前年度に比べて12%増加して36万2,800haの見込みとなっている。実際に見込み通りの値となれば、2014年度の作付面積及び収穫面積は過去最高記録の水準となる。平均単収は、2,080kg/haの見込みであり、2013年度に比べて45kgの低下となる。モンタナ州では、作付けは基本的に前年度とほぼ同じ6月初めまでに終了している。収穫は7月下旬に始まり、9月半ばに終了した。作柄は生育期間中を通じて大部分が並みから良とされている。ノースダコタ州では作付けは6月半ばまでに終了して

おり、前年度及び最近5年間の平均と比べて早まっている。収穫は8月半ばに始まり、9月21日までに95%が終了している。

### オーストリアンウィンターピー

2014年度のオーストリアンウィンターピーの作付面積は、2013年度に比べて28%増加して9,300haとなる見込みである。収穫面積は、2013年度に比べて53%増加して8,740haとなる見込みである。平均単収は、1,312kg/haの見込みであり、2013年度に比べて202kgの低下となる。

表1 乾燥インゲンマメの州別及び銘柄別収穫面積、単収及び生産量（12月1日現在の推定値）

州名及び銘柄名	収穫面積		生産量 2/	
	2013	2014	2013	2014
	(1,000ha)		(1,000t)	
ラージライマ				
カリフォルニア州	2.7	3.2	8.6	8.3
ベビーライマ				
カリフォルニア州	2.8	6.0	8.1	13.0
ネイビー				
アイダホ州	0.8	0.8	2.2	2.3
ミシガン州	24.1	30.0	57.0	73.2
ミネソタ州	14.2	19.1	31.3	34.5
ネブラスカ州	(1/)	0.3	(1/)	0.5
ノースダコタ州	28.3	42.1	58.9	73.6
オレゴン州	0.9	(1/)	2.6	(1/)
サウスダコタ州	0.6	1.9	1.2	2.8
ワシントン州	(1/)	0.4	(1/)	1.4
ワイオミング州	0.4	0.2	1.1	0.3
米国全体	69.5	94.9	154.3	188.5
グレートノーザン				
アイダホ州	1.0	2.8	3.0	7.1
ミネソタ州	(1/)	(1/)	(1/)	(1/)
ネブラスカ州	22.1	28.8	56.4	82.1
ノースダコタ州	2.3	4.1	3.9	8.3
ワイオミング州	2.0	4.9	5.4	10.5
米国全体	27.4	40.6	68.7	108.0
スモールホワイト				
アイダホ州	(1/)	1.0	(1/)	2.0
オレゴン州	(1/)	(1/)	(1/)	(1/)
ワシントン州	(1/)	(1/)	(1/)	(1/)
米国全体	(1/)	1.0	(1/)	2.0
ピントー				
アリゾナ州	1.9	2.0	3.8	3.9
コロラド州	11.3	13.8	17.4	30.1
アイダホ州	9.2	7.7	27.0	20.9
カンザス州	1.4	2.2	2.9	4.2
ミシガン州	0.9	0.8	1.8	1.4
ミネソタ州	4.5	3.8	8.3	5.7
モンタナ州	2.3	2.3	6.2	6.0
ネブラスカ州	19.5	26.1	53.3	70.5
ニューメキシコ州	3.8	3.9	8.8	9.7
ノースダコタ州	119.4	160.7	216.1	257.5
オレゴン州	0.6	0.4	1.7	1.1
サウスダコタ州	0.6	1.1	1.7	2.4
ワシントン州	4.3	4.9	12.9	14.6
ワイオミング州	8.9	9.1	23.0	20.5
米国全体	188.8	238.7	384.9	448.3

表1 乾燥インゲンマメの州別及び銘柄別収穫面積、単収及び生産量（12月1日現在の推定値）（続き）

州名及び銘柄名	収穫面積		生産量 2/	
	2013	2014	2013	2014
	(1,000ha)		(1,000t)	
ライトレッドキドニー				
カリフォルニア州	1.1	0.8	1.7	2.0
コロラド州	1.2	2.3	2.5	5.7
アイダホ州	0.4	0.8	1.1	2.3
ミシガン州	3.2	4.4	5.8	7.8
ミネソタ州	6.0	6.8	14.3	14.4
ネブラスカ州	3.3	4.7	8.4	14.7
ニューヨーク州	1.1	1.4	2.3	2.2
オレゴン州	0.3	0.4	0.6	1.1
ワシントン州	0.6	1.5	1.6	3.3
米国全体	17.0	23.1	38.3	53.6
ダークレッドキドニー				
カリフォルニア州	0.3	0.6	0.7	1.1
アイダホ州	0.2	0.8	0.6	1.9
ミシガン州	0.9	1.1	0.9	1.1
ミネソタ州	12.7	15.5	28.3	31.7
ニューヨーク州	0.6	0.6	1.5	1.2
ノースダコタ州	0.5	0.6	1.1	0.9
オレゴン州	0.2	(1/)	0.3	(1/)
ワシントン州	(1/)	1.4	(1/)	3.5
ウイスコンシン州 3/	2.2	2.7	44	7.4
米国全体	17.7	23.2	38.0	48.8
ピンク				
カリフォルニア州	0.2	-	0.6	-
アイダホ州	2.7	3.6	8.2	10.9
ミネソタ州	2.3	1.6	4.6	2.8
ノースダコタ州	3.2	4.5	5.9	5.1
オレゴン州	(1/)	(1/)	(1/)	(1/)
ワシントン州	0.8	0.4	2.4	1.2
米国全体	9.3	10.1	21.6	20.0
スモールレッド				
アイダホ州	3.0	3.2	9.4	9.1
ミシガン州	6.2	7.9	12.9	16.2
ミネソタ州	(1/)	(1/)	(1/)	(1/)
ノースダコタ州	0.7	1.1	1.4	2.3
ワシントン州	0.4	1.6	1.2	4.9
米国全体	10.4	13.8	24.9	32.5

州名及び銘柄名	収穫面積		生産量 2/	
	2013	2014	2013	2014
	(1,000ha)		(1,000t)	
クランベリー				
カリフォルニア州	0.2	0.3	0.5	0.8
アイダホ州	(1/)	(1/)	(1/)	(1/)
ミシガン州	1.4	1.6	2.0	2.6
ミネソタ州	(1/)	(1/)	(1/)	(1/)
オレゴン州	(1/)	(1/)	(1/)	(1/)
米国全体	1.6	1.9	2.4	3.4
ブラック				
アイダホ州	0.6	0.6	1.9	1.8
ミシガン州	31.0	43.7	66.0	94.2
ミネソタ州	6.0	9.3	12.7	18.7
ネブラスカ州	1.5	1.1	4.2	3.4
ニューヨーク州	1.5	0.7	2.8	1.0
ノースダコタ州	14.9	30.8	24.7	44.8
オレゴン州	0.2	0.4	0.5	1.0
ワシントン州	0.8	2.0	2.6	5.7
米国全体	56.5	88.7	115.4	170.6
ブラックアイ				
アリゾナ州	(1/)	0.7	(1/)	1.4
カリフォルニア州	4.3	2.6	13.4	5.8
テキサス州	11.4	8.1	15.6	10.0
米国全体	15.7	11.4	29.0	17.2
ヒヨコマメ（ガルバンゾ）全品種				
カリフォルニア州	4.5	3.6	11.6	9.4
アイダホ州	31.4	32.0	51.3	46.4
モンタナ州	7.2	12.0	14.2	19.5
ノースダコタ州	3.8	2.5	8.1	3.4
オレゴン州	0.4	0.5	0.8	0.9
サウスダコタ州	2.2	1.1	4.3	1.6
ワシントン州	39.1	36.0	71.2	47.1
米国全体	88.5	87.7	161.4	128.4
その他				
米国全体	24.8	28.4	59.1	58.5
乾燥インゲンマメ全品種				
米国全体	532.7	672.8	1114.7	1301.1

1/ 個別の経営主体のデータの開示を防ぐために、「その他」にデータを含める。

2/ 選別後のデータ。

3/ 個別の経営主体のデータの開示を防ぐために、一定量のライトレッドキドニーを含む。

2014年12月10日公表、米国農務省、農産物生産量報告書

表2 米国のレンズマメ、乾燥エンドウ、オーस्टリアンウィンターピーの州別収穫面積、単収及び生産量(11月1日現在の推定値)

州名及び銘柄名	収穫面積		生産量 2/	
	2013	2014	2013	2014
	(1,000ha)		(1,000t)	
レンズマメ				
アイダホ州	12.1	9.7	17.7	10.9
モンタナ州	52.2	51.8	87.8	73.2
ノースダコタ州	51.0	25.9	80.0	39.2
ワシントン州	25.1	19.8	42.2	24.4
米国全体	140.4	107.2	227.7	147.7
乾燥エンドウ				
アイダホ州	14.6	17.8	35.9	35.9
モンタナ州	159.9	206.4	322.5	397.9
ノースダコタ州	113.3	99.1	260.4	233.4
オレゴン州	2.8	3.4	7.3	8.5
ワシントン州	32.0	36.0	82.4	80.7
米国全体	322.5	362.8	708.5	756.4
オーस्टリアンウィンターピー				
アイダホ州	1.6	2.8	3.1	5.1
モンタナ州	3.2	4.8	5.6	4.5
オレゴン州	0.8	1.1	1.6	1.9
米国全体	5.7	8.7	10.3	11.5

米国農産物 農産物生産量 (2014年11月10日公表)

## カナダ：2014年11月21日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops

本報告書は、10月に公表されたカナダの2014/15作物年度の生産見通し報告書を更新するものである。2014/15作物年度の生産量は平年並みに近いが、作柄についての主な関心はその品質に集まっている。単収が平年並みに近い値に戻ったことから、2014/15作物年度の実生産量は2013/14作物年度の過去最高記録に比べて大幅に減少した。生育期間及び収穫期間の天候は非常に良好であったが、全畑作物を通じた平均単収は前年度を約18%下回る見込みである。カナダ西部では、ダイズの収穫は終了しつ

つあるが、トウモロコシの収穫は始まったところである。カナダ西部では8月末から9月初めにかけての多雨で収穫が遅れたことから、畑作物の品質が主な関心事となっている。カナダ東部でも、土壌湿度が高かったことで、トウモロコシの品質が低下している。

## 豆類

### 乾燥エンドウ

2014/15作物年度のカナダの実生産量は、前年度に比べて11%減少して350万tとなる見込みである。これは、特にサスカチュワン州で収穫面積が増加したものの、単収の低下と収穫を断念した割合が多かったことで増加分が相殺されたことによるものである。黄色乾燥エンドウの実生産量は大幅に減少して270万tとなる見込みであり、その一方で緑色乾燥エンドウの実生産量は急激に増加して80万tとなる見込みである。その他の乾燥エンドウ全品種の実生産量はやや減少して5万tを下回る見込みである。総供給量は、期初在庫量が多かったことから、7%だけ減少して390万tに近い値となる見込みである。輸出量は増加して290万tとなる見込みであり、9月時点のデータではインド、バングラデシュ及び中国がカナダ産乾燥エンドウの輸出先の上位3位までを占めている。輸出量が増加し国内利用量が減少した結果、期末在庫量は減少する見込みである。平均価格は2013/14作物年度に比べて低下する見込みである。

9月中にサスカチュワン州の黄色乾燥エ

エンドウの生産者価格は約5カナダドル/t上がり、緑色乾燥エンドウの生産者価格は約20カナダドル/t上がった。これは主として8月及び9月の輸出量が過去最高記録の水準に達するほどであったことによるものである。その他の要素としては、カナダ産乾燥エンドウの品質について、現時点では第1等級及び第2等級のカナダ産乾燥エンドウの供給量が前年度に比べて減少するとみられていることがある。緑色乾燥エンドウの価格は、黄色乾燥エンドウの価格を85カナダドル/t上回る水準を維持する見込みである。この上乗せ価格は平年並みの水準を上回ってはいるが、前年度の上乗せ価格160カナダドル/tを下回っている。

米国の2014/15作物年度の乾燥エンドウ作付面積は、米国農務省の予測によれば、前年度に比べて8%増加する見込みである。これは主としてモンタナ州及びノースダコタ州で作付面積の増加が見込まれていることによるものである。単収が平年並みと見込まれているので、米国農務省の予測によれば米国の乾燥エンドウ生産量は8%増加して78万tとなる見込みである。米国産乾燥エンドウの主要な市場は中国及びインドであり、カナダと同様である。

#### レンズマメ

2014/15作物年度の実生産量は19%減少して180万tとなる見込みである。収穫面積が増加したにも関わらず、レンズマメ生産量が減少したのは収穫を断念した割合が多かったことによる。大粒緑色レンズマメの

生産量は前年度に比べて大きく減少して40万tとなる見込みであり、その一方で赤色レンズマメの実生産量は前年度と同じ120万tとなる見込みである。その他のレンズマメ全品種の実生産量は全年度に比べて減少して10万tをわずかに上回る値となる見込みである。

生産量が減少したことから、総供給量は22%減少する見込みである。供給量が減少しているため、輸出量は160万tに留まる見込みである。現時点では、インド、トルコ、EU-27カ国及びアラブ首長国連邦が輸出市場の上位を占めている。国内利用量は減少する見込みであるが、等級分布が平均水準を下回るとの思惑から、引き続き歴史的な水準を上回っている。期末在庫量は3年連続で大幅に減少する見込みである。期末在庫量が減少する見込みであることから、レンズマメ全品種の平均価格は2013/14作物年度に比べて上昇する見込みである。

10月中旬に、サスカチュワン州の大粒緑色レンズマメの生産者価格は110カナダドル/t上がり、その一方で赤色レンズマメの生産者価格は15カナダドル/t上がっている。これは主としてカナダ産レンズマメの品質に関して、現時点では2014/15作物年度の第1等級及び第2等級のカナダ産レンズマメの供給量が前年度に比べて減少する見込みが示されていることによるものである。大粒緑色レンズマメの価格は、2013/14作物年度には赤色レンズマメの価格を10カナダドル/t下回ったが、2014/15作物年度は赤色レンズマメに対する上乗せ



価格を維持する見込みである。

米国の2014/15作物年度のレンズマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、2013/14作物年度に比べて12%減少して30万エーカー（12万1,000ha）となる見込みであるが、これはモンタナ州で作付面積が減少したことによるものである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとすると、2014/15作物年度の米国のレンズマメ生産量は、カナダ農業食糧省（AAFC）の予測によれば、前年度に比べて19%減少して20万tとなる見込みである。現時点での米国産レンズマメの主要な輸出市場は、引き続きインド及びEU-27カ国となる見込みである。

#### 乾燥インゲンマメ

2014/15作物年度の生産量は26%増加して29万2,000tとなるものと見込まれている。このうち9万8,000tがホワイト・ビーンであり、19万4,000tがカラード・ビーンである。オンタリオ州の生産量が大幅に増加したが、これはホワイト・ビーン及びカラード・ビーンの両方の栽培面積が増加したことによるものである。マニトバ州では、ホワイト・ビーンの栽培面積が増加し、カラード・ビーンの栽培面積は減少した。

供給量の増加率は8%に留まっており、これは期初在庫量が非常に少なかったことによるものである。輸出量は供給量が少なかったことにより減少すると見込まれている。8月及び9月の時点で、EU-27カ国及び米国が輸出市場の上位2位までを占めてお

り、より少ない量が日本及びアフリカ諸国へ輸出されている。期末在庫量は増加する見込みである。カナダ産乾燥インゲンマメの平均価格は、北米全体からの供給量が多かったことにより低下するものと見込まれている。

米国の乾燥インゲンマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、大幅に増加して150万エーカー（60万7,000ha）となる見込みであるが、これはノースダコタ州で作付面積が増加していることによるものである。2014/15作物年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量（ヒヨコマメを除く）は、AAFCの予測によれば、2013/14作物年度に比べて21%増加して120万t近い値となる見込みである。増加率が大きい銘柄は、ブラック・ビーン、ピントー・ビーン及びネイビー・ビーンである。米国産乾燥インゲンマメの輸出市場は、引き続きカナダ、EU-27カ国及びメキシコである。

#### ヒヨコマメ

2014/15作物年度の実生産量は大幅に減少して14万1,000tとなる見込みであるが、これは単収の低下が見込まれていることによるものである。デシ種ヒヨコマメの実生産量はわずかに減少し、その一方でカブーリ種ヒヨコマメの実生産量は前年度に比べて大幅に減少する見込みである。しかし、前年度からの期初在庫量が多かったことから、供給量は16%増加する見込みである。輸出量は2013/14作物年度に比べて増加する見込みであり、8月及び9月の時点で、EU-27

カ国及び米国が輸出市場の上位2位までを占めており、より少ない量がヨルダン及びイスラエルを含む中東諸国へ輸出されている。期末在庫量は減少する見込みであるが、それでも多い。世界的に供給量が多く、カナダの供給量もあることから、平均価格は3年連続で低下する見込みである。

2014/15作物年度の米国のヒヨコマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、4%

増加して過去最高記録の22万エーカー（8万9,000ha）となる見込みである。これは主としてモンタナ州で作付面積が増加したことによるものである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとする、2014/15作物年度の米国のヒヨコマメ生産量は、AAFCの予測によれば、16万tと見込まれており、2013/14作物年度をわずかに上回る値となる見込みである。

表3 カナダの豆類作付・収穫面積、単収、生産量その他

	乾燥エンドウ [a]			レンズマメ [a]			乾燥インゲンマメ [a]			ヒヨコマメ [a]		
	2012-13	2013-14	2014-15[f]	2012-13	2013-14	2014-15[f]	2012-13	2013-14	2014-15[f]	2012-13	2013-14	2014-15[f]
作付面積 (1,000ha)	1,509	1,345	1,589	1,018	1,060	1,267	127	100	140	81	77	73
収穫面積 (1,000ha)	1,475	1,329	1,488	1,004	1,052	1,166	125	100	136	80	76	71
単収 (t/ha)	2.26	2.98	2.37	1.53	2.07	1.51	2.26	2.32	2.14	2.02	2.33	1.99
生産量 (1,000t)	3,341	3,961	3,529	1,538	2,173	1,756	281	232	292	161	177	141
輸入量 (1,000t) [b]	16	25	15	9	9	10	79	70	70	9	9	8
総供給量 (1,000t)	3,622	4,160	3,853	2,407	2,489	1,935	365	332	367	181	240	279
輸出量 (1,000t) [b]	2,650	2,779	2,900	1,638	1,755	1,600	297	304	300	69	48	90
国内総利用量 (1,000t)[c]	798	1,072	828	461	565	285	38	23	27	59	62	64
期末在庫量 (1,000t)	174	309	125	307	169	50	30	5	40	54	130	125
在庫量/利用量 (%)	5	8	3	15	7	3	9	2	12	42	118	81
平均価格 (\$/t) [d]	340	260	230-260	440	445	520-550	835	995	800-830	690	500	460-490

[a]作物年度(8月から7月)

[b]輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c]国内総利用量=食用及び加工原料用+飼料用廃棄物+種子用+損耗。国内総利用量は、総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d]生産者価格(FOB)。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

f:推定。カナダ農業食料省。2014年11月21日付。

資料:カナダ統計局及び業界団体。



**オーストラリア：**  
**2014年12月2日公表**  
**ABARES Australian crop report**

**概観**

2014/15年度の冬作物の生産見通しは、特にクイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州及びヴィクトリア州で冬季及び春季の降水量がこの季節としては平年並みを下回ったことにより、下方に修正された。2013/14年度の冬作の総生産量は、ニューサウスウェールズ州では9月時点での予測を5%、ヴィクトリア州では9月時点での予測を19%下回る値となっている。

2013/14年度の生産量と比べると、2014/15年度の冬作物の生産量はすべての主要生産州で減少しており、ヴィクトリ

ア州、西オーストラリア州及び南オーストラリア州では大幅な減少が見込まれている。しかし、西オーストラリア州及び南オーストラリア州では、減少を見込んでも2013/14年度の平年並みの生産量の水準を上回る見込みである。

冬作物の収穫はクイーンズランド州及びニューサウスウェールズ州北部ではおおむね終了している。西オーストラリア州、ニューサウスウェールズ州南部及びヴィクトリア州では、収穫が進行中である。

2014/15年度のオーストラリア全体の冬作物の総生産量は、16%減少して3,700万tとなる見込みである。現時点での予測では、2014/15年度の冬作の生産量は、2012/13年度までの10年間の平均の3,570万tを4%前後上回る見込みである。

**表4 オーストラリアの豆類の作付面積及び生産量**

冬作	作付面積 (1,000ha)			生産量 (1,000t)		
	2012-13	2013-14s	2014-15f	2012-13	2013-14s	2014-15 f
ヒヨコマメ	574	507	343	813	632	435
ファバビーン(ソラマメ)	203	152	166	377	313	244
フィールドピー	281	245	231	320	339	268
レンズマメ	165	169	172	185	223	201
ルーピン	450	387	437	459	622	501

f：ABARESによる予測。 s：ABARESによる推定。

作物年度は4月1日から3月31日までの12カ月間に作付けされた作物を対象とする。

資料：ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局：PulseAustralia

表5 州別生産量

	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積 1,000ha	生産量 1,000t	作付面積 1,000ha	生産量 1,000t	作付面積 1,000ha	生産量 1,000t	作付面積 1,000ha	生産量 1,000t	作付面積 1,000ha	生産量 1,000t	作付面積 1,000ha	生産量 1,000t
ヒヨコマメ												
2014-15f	145	193	26	15	155	210	13	14	3	4	0	0
2013-14s	220	251	48	52	216	296	19	27	5	6	0	0
2012-13	280	379	49	52	218	357	20	22	6	4	0	0
2013/14年度までの5年間の平均	280	320	44	50	181	232	14	17	5	4	0	0
フィールドピー												
2014-15f	51	66	45	43	0	0	110	127	25	32	1	1
2013-14s	50	53	51	65	0	0	112	184	32	37	1	1
2012-13	53	66	52	65	0	0	114	130	62	59	1	1
2013/14年度までの5年間の平均	43	48	54	74	0	0	115	169	63	60	1	1
レンズマメ												
2014-15f	1	1	82	83	0	0	90	118	0	0	0	0
2013-14s	1	1	79	80	0	0	89	141	1	1	0	0
2012-13	1	1	77	80	0	0	87	103	1	1	0	0
2013/14年度までの5年間の平均	1	1	79	98	0	0	86	144	1	1	0	0
ルーピン												
2014-15f	56	63	32	29	0	0	55	64	295	345	0	0
2013-14s	57	57	28	26	0	0	56	78	246	461	0	0
2012-13	58	63	29	26	0	0	61	74	303	295	0	0
2013/14年度までの5年間の平均	85	108	36	38	0	0	59	78	414	513	0	0

f : ABARES による予測。 s : ABARESによる推定。

表6 オーストラリアの豆類供給及び利用状況

	2007-08 1,000t	2008-09 1,000t	2009-10 1,000t	2010-11 1,000t	2011-12 1,000t	2012-13 1,000t
生産量						
ルーピン	662	708	823	808	982	459
フィールドピー	268	238	356	395	342	320
ヒヨコマメ	313	443	487	513	673	813
見かけ上の国内利用量 <sup>a</sup>						
ルーピン	585	404	470	621	416	290
フィールドピー	129	104	196	95	130	145
ヒヨコマメ	87	1	1	39	93	1
輸出量						
ルーピン	77	304	353	186	565	169
フィールドピー	141	137	162	302	215	177
ヒヨコマメ	222	506	492	461	598	815

a : 生産量に輸入量を加えた値から、輸出量を引き、さらに在庫量に明らかな変化が認められたか推定された場合には、その値を引いて算出した値。

注 : 生産量、利用量、輸出入量及び在庫量は、市場年度に基づいている。

ピー及びルーピンの市場年度は11月から10月まで。

在庫量の増減があることから、生産量は、単年度内の見かけ上の国内利用量と輸出量を足した値とは一致しない場合がある。

輸出量のデータは、市場年度に基づく輸出期間を参照したものであって、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出量とは一致しない場合がある。

資料 : ABARES (オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、PulseAustralia

表7 豆類価格の推移

	2013 第1四半期 豪ドル/t	2013 第2四半期 豪ドル/t	2013 第3四半期 豪ドル/t	2013 第4四半期 豪ドル/t	2014 第1四半期 豪ドル/t	2014 第2四半期 豪ドル/t	2014 第3四半期 豪ドル/t
国内価格：ルーピン (クイナナ調べ)	331	299	288	309	349	327	293
国内価格：ヒヨコマメ (メルボルン調べ)	518	532	439	390	437	449	433
国内価格：フィールドピー (メルボルン調べ)	370	396	403	335	366	389	366
輸出価格：ヒヨコマメb	595	612	620	498	537	534	557
輸出価格：フィールドピー b	431	444	489	420	422	431	467

b：単位重量当たりの輸出価格は、その四半期に輸出された穀物の平均価格を反映したものであって、現在の市場価格とは異なる。

ここに示した価格は、オーストラリア統計局が記録したオーストラリアからの輸出の単位重量当たり価格（F.O.B.本船渡し）である。

輸出業者による価格の取り決めの時点と、実際に輸出が行われる時点の間には、大きな時間差が生じる場合がある。  
注：第1四半期は1月から3月まで。第2四半期は4月から6月まで。第3四半期は7月から9月まで。第4四半期は10月から12月まで。価格の算出に当たっては、商品サービス税（GST）を除外している。